

## 1 活動の設定理由

自分の英語にあまり自信がないため、英語で話しかけたり意見を求めたりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。そこで、英語科以外の教師に、英語でインタビューをする機会を設定した。ただし、ただインタビューをするだけではなく、一つずつミッションをクリアするというゲーム的な要素を取り入れた。具体的には、キーワードを集めたり、英語での指示に従って場所を移動するなどして、生徒の活動意欲を高めるような工夫をした。最終的には、そこで得た情報をもとに英語で教師を紹介する文を作成させ、それを発表する力を付けさせたい。

## 2 指導目標

- ①英語でコミュニケーションを図るために、関心のある事柄について相手に英語で質問できるようにする。
- ②状況や場面に応じて、英語で適切に応答できるようにする。
- ③インタビューで得た情報を整理し、英語で的確に書き表すことができるようにする。

## 3 授業での位置付け

ライティングの授業で、身近な人々を紹介する文章を書くための題材集めをする活動として行う。または、オーラルコミュニケーションの道案内の表現を学んだ後の応用活動として行う。

## 4 指導手順

- ①生徒をいくつかのグループに分け、質問事項を考えさせノートに書かせる。
- ②そのノートを提出させ、添削後返却し、グループで質問文を練習させる。
- ③正確に話せるようになったグループから、順に、英語でどこに行けばよいかという指示を授業担当教師が出す。
- ④指示通りに行った場所に別の教師にいてもらい、生徒の質問に答えてもらう。また、その教師にも質問をしてもらい、きちんと答えられたら、キーワードを生徒に伝えてもらう。さらに、次にどこに行けばよいかを英語で指示してもらう。これを何度か繰り返し、最後には教室に戻って来させる。
- ⑤教室に戻り、教師に教えてもらったキーワードを用いて一つの文章を完成させる。また、教師の答えや質問をまとめ、教師を紹介するイントロダクションカードを作成させる。
- ⑥作成した紹介文は、発表させたり、模造紙などに貼って教室に掲示したりして、他の生徒にも伝えさせる。

## 5 指導上の留意点

- ①英語科以外の教師に協力してもらうので、事前に質問事項や指示の内容を十分に確認する。複数のグループがあるので、なるべく重ならないように、教室を出る時間に差をつけるなどの工夫をする。
- ②教師からの質問文には、生徒に定着させたい重要表現などを盛りこみ、必ずディクテーションさせる。
- ③最後に教師を紹介するカードを書くので、その情報を集められるような質問をさせる。
- ④辞書を持参させ、活動中に意味が分からなかった単語はその場で調べさせ、必ずメモさせておく。
- ⑤キーワードは、生徒がそれらを使って英作文をするので、あまり難しいものにしない。

## 6 教材例

旺文社 *Planet Blue Writing Navigator* Stage 2 Unit 3 "Writing about People"  
開隆堂 *Oral Communication EXPRESSWAYS I* Lesson11 "Directions"

- 7 資料 資料① ワークシート I 資料② ワークシート II  
資料③ 生徒が作成した「Introduction Card」

<資料① ワークシート I> (質問を書いたり、教師の答えやキーワード、言われた道順を書いたりするもの)

### Stage 2 Unit 3 "Writing about People"

Class( ) No( ) Name( )

- |           |                              |
|-----------|------------------------------|
| Mission 1 | 先生方に関する情報をたくさん集めよう。          |
| Mission 2 | 先生方からキーワードを聞き出そう。            |
| Mission 3 | 先生方の「Introduction Card」を作ろう。 |

教室を出て、指示通りに行くと、ある先生が君たちを待っています。誰が待っているかはお楽しみです。その先生の紹介文が書けるように、なるべくたくさんの質問をして情報を集めてきてください。最後にその先生から君たちへ質問があります。それに見事答えられるとキーワードを教えてください。先生に聞かれた質問とキーワードは必ずメモしてきてください。その先生が新たな指示を出してくれます。その指示に従って行くと、また誰かが待っていてくれます。同じようにして情報を集めてきてください。グループで協力して、上の三つのミッションをクリアしてください。

TASK 1 What do you ask the teachers ? ・何を質問するかを考え書いておこう！  
・質問するときは、相手の顔を見る！

\*  
\*  
\*

\*If you can make questions, please come to me. I will give you the directions.

<先生の指示> どうやって進んで行けばいいのかな？メモしておこう！

TASK 2 Who is waiting for you?

His / Her answers

His/ Her questions

KEY WORD
----------

<先生の指示> どうやって次に進んで行けばいいのかな？メモしておこう！

— 以下省略 —

<資料② ワークシートⅡ> (教室に戻った後、活動のまとめとして使用するもの)

Welcome back! Can you collect three "KEY WORDS" ? ① \_\_\_\_\_

TASK 5 Make 1 sentence using three KEY WORDS. ② \_\_\_\_\_

③ \_\_\_\_\_

参考 今回のキーワード ① can ② English ③ better  
 \*生徒の作文例 Ms. ○○ can speak English better than I.

TASK 6 Which way do your group take? Draw a map!  
 教室を出て、どこを通過して、また教室に戻ってきたのか簡単に書いてみよう! 先生の指示通りに行けたかな?

TASK 7 Make Introduction Card.  
 インタビューで集めた情報をもとにして、先生方の紹介文を書いてみましょう。  
 3人の先生方を紹介しても、1人の先生を選んで紹介してもかまいません。

Introduction Card Mr. / Ms. ( )

<資料③ 生徒が作成した「Introduction Card」>

Introduction Card Mr. / Ms. ( ○○ )

Ms. ○○ lives in Esoshima.  
 She likes going shopping in Tobu Department store. She buys lots of "Hello Kitty" goods because it is her favorite anime character. Her treasures are "Hello Kitty" room shoes. The color is pink. It is her favorite color. She will buy a "Hello Kitty" ball-point pen this weekend. She is looking forward to buying the new ball-point pen.



保健室で養護教諭にインタビュー



職員室でインタビュー

## 8 考察

ライティングの指導は和文英訳に偏りがちで、コミュニケーション活動を取り入れる機会は少ない。本事例では、パラグラフライティングのための情報収集の手段として、英語科以外の教師に協力してもらい、インタビュー活動を実践した。教師が英語でコミュニケーションを図ろうと積極的だったため、生徒たちも刺激を受け、積極的に発話しようとする姿勢が見られた。自分が知りたい情報を得るために、英語で会話をするには、生徒にとっては難易度の高い活動であった。しかし、「伝えたい」「理解したい」という二つの思いが、教師にも生徒にもあったため、活発なやりとりがなされ、有益なコミュニケーション活動となった。

本事例には様々な要素が盛り込まれているため、生徒に課されているが内容が多く、予定していたよりも時間がかかってしまった。しかし、生徒はミッションをクリアするという目標に向かって前向きに取り組み、自然に英語を話したり、聞いたり、書いたりしていた。また、最後の「書く」活動において、生徒が書いた紹介文は、普段の授業で書いたものよりも内容が濃く、分量も多かった。ただ決められた質問をしてインタビューをするという活動ではなく、ミッションをクリアしながら活動を進め、最終的に紹介文を書くという目的をもたせた活動だったためではないだろうか。

コミュニケーション活動は、生徒が喜ぶような楽しい活動をすればよいというものではない。設定された場面の中ではあるが、自分がそれまでに習得している英語を用いて、コミュニケーションを図ることの楽しさを体験させることが重要である。それが生徒の英語学習への動機付けとなるからである。楽しさとは、もちろん「分かる・できる」楽しさのことであり、それを感じさせることができる言語活動が、意味のある活動といえる。生徒に学習活動に対する意義を感じさせることは、コミュニケーション活動を成功させる一つの鍵であると再認識した。

## 9 応用例

授業の位置付けの応用例

- ・道案内などの表現を学ぶレッスンのまとめとして行う。
- ・クラス内で自己紹介や他者紹介などを行った後の仕上げの活動として行う。

作成した紹介文のまとめ方の応用例

- ・新聞にして、クラスに掲示する。
- ・まとめて本にする。